

# 会議録

令和7年2月19日提出

会議の名称	西東京市公民館運営審議会 令和6年度第7回定例会
開催日時	令和6年11月20日(水) 18時30分から20時15分まで
開催場所	柳沢公民館 視聴覚室
出席者	委員：西原みどり(会長)、小須田厚子(副会長)、高橋浩一、辻康一、高井正、荒井容子、荒井茂、小池教之、石川健、青木美紀子、ギログリー江美、城石雅行、松本静、下坂小百合 職員：福所館長、市川事業係長、山本分館長(田無)、根岸分館長(芝久保)、一之瀬分館長(谷戸)、安島分館長(保谷駅前)、星野事業係主任
欠席者	
議題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 審議事項             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 令和6年度第5回定例会会議録(案)について(資料1)</li> <li>(2) 令和6年度第6回定例会会議録(案)について</li> </ol> </li> <li>2 主催事業について             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 令和6年度公民館主催事業報告について(資料2)</li> <li>(2) 令和6年度公民館主催事業計画について(資料3)</li> <li>(3) 令和6年度第1回利用者懇談会報告(資料4)</li> </ol> </li> <li>3 報告事項             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 行政報告</li> <li>(2) 公民館だより編集室報告</li> </ol> </li> <li>4 事務連絡及び情報交換             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 東京都公民館連絡協議会委員部会研修について</li> <li>(2) 令和6年度公民館運営審議会委員研修について</li> <li>(3) 第61回東京都公民館研究大会について</li> <li>(4) その他</li> <li>(5) 令和6年度第8回定例会の開催について</li> </ol> </li> </ol>
会議資料の名称	<b>【配付資料】</b> 資料1 令和6年度第5回定例会会議録(案) 資料2 令和6年度公民館主催事業報告書 資料3 令和6年度公民館主催事業計画書 資料4 令和6年度第1回利用者懇談会報告
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
傍聴者	<input checked="" type="checkbox"/> あり(1名) <input type="checkbox"/> なし
会議内容	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 審議事項             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 令和6年度第5回定例会会議録(案)について(資料1) ●令和6年度第5回定例会会議録(案)について承認</li> <li>(2) 令和6年度第6回定例会会議録(案)について ●令和6年度第6回定例会会議録(案)については、近日中に送付予定。各自内容を確認し、到着後1週間を目途に修正、意見がある場合、事務局に連絡することとする。</li> </ol> </li> <li>2 主催事業について             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 令和6年度公民館主催事業報告について(資料2) ○A委員 いずれもすごく充実した講座。思春期の子どもに向き合うための講座「親子の信頼関係をは</li> </ol> </li> </ol>	

ぐくむコミュニケーション」(ひばりが丘)は挑戦的な内容で、継続して取り組んできたが、感想を読んでも求められていたことがわかる。今後もチャレンジを続けてほしいし、社会問題講座「不登校のこどもたちと共に歩む社会」(保谷駅前)も公民館の蓄積を顧みると、継続して取り組んできたことでグループが生まれ、さらに、継続することでネットワークをつくっていってほしいと思う。

○B委員

保谷駅前公民館の不登校を取り上げた講座は長年継続して実施してきているが、その親にとっては新しい問題なのだと、感想を読んで感じる。講座内容が同じであっても、次から次へと不登校の子どものいる親はいて、ニーズはあると感じる。継続していくとよいと思う。

事業報告から離れるが、令和5年度の保谷駅前公民館主催人権講座で「西東京市子ども条例すごろくマジか!」をつくったが、今後、これを活用する事業を実施していただきたい。

○C委員

子育て中の女性のための講座「一緒に子育てステップアップ講座」(谷戸)について、保育室からの報告に関する参加者の感想を読むと、保育員の丁寧な取り組みが、こういった感想やお母さんたちの気付きにつながっていると思う。保育室の根底が市民に伝わるのが大切だと思うので、安心した。担当の考察・課題欄に、「後半にもグループワークを入れた方がよかった」とあるが、互いに顔を見て、子育ての悩み等を語ることで共感してつながっていく。それが保育でも実践されていると感じた。社会問題講座(保谷駅前)については、担当者の粘り強い取り組みを感じる。継続することで地域の人たちがかかわるようになり、今後も継続してほしい。担当の感想に「公民館がひとつの文化を築いてきたことを実感した」とあるが、そのような講座を組んでいる点や公民館が応援している点で、誇れるような事業だと思った。

○D委員

子どもを取り巻く環境のところで、不登校そのものを解決させるのか、不登校を認めてあげて多様な機関、制度でフォローするのか、いろいろなパターンがあると思うが、公民館では、どちらで考えているのか、伺いたい。

○分館長(保谷駅前)

公民館は後者の立場。無理に学校に行かせるのではなく、サードプレイスとしての居場所をつくることに主眼を置いて講座を行っている。

○事業係長

ひばりが丘公民館でも、長年にわたって、市民団体「西東京不登校情報ネットワーク ハートラインにしとうきょう」と定期的に情報交換会を行い、年に1回、共催で不登校をテーマにした「子どもの課題を考える講座」を実施してきている。さらに、柳沢公民館では、公教育自体を考えよう、今の小学校がどのような状況にあるのか考えようということで、夏に地域づくりを考える講座「なぜ子どもたちはうつむいて登校するのか～子どもを取り巻く教育環境について考える～」を行った。公民館では、今後、学校のことと学校の外のことを両輪で取り組んでいきたいと考えている。

○C委員

このことについて、校長先生から感想等を伺いたい。

○D委員

学校教育だけで100%網羅することはありえない。学校教育になじめない人は2%、3%、必ずいる。その保護者、子どもに、安心材料、安心感を提供することはとても大切だと思う。その時、公民館は大きな役割を果たすだろうと思っている。学校と連携してできたらよいと思う。

○E委員

公民館が不登校に関する講座を長い間、行っていることで、支援団体が増えてきたことを実感している。不登校の子どもの抱える保護者にとって、情報やそれを共有したりする場は大切。それは、子どもたちにも返っていく。講座で同じような悩みを抱える方たちが集まって、共有できていくことは、学校としてもありがたいこと。D委員がおっしゃったように、連携を取れていけたらと思う。

○公民館長

教育委員会では、不登校の子どもを抱える保護者向けのリーフレットを作成し、行政が行っている相談支援について紹介するとともに、公民館で活動する支援団体も紹介している。公民館はサードプレイスとしての役割も担っていて、過去にK-POPダンスの講座などの青少年対象講座に不登校の子どもが参加していたこともある。社会教育機関として、今後も取り組んでいきたい。

○A委員

複数の館で、不登校をテーマにした講座や思春期の子どもと向き合うための講座等が実施されていて、公民館が、不登校の子どもとのかかわりに戸惑ったり、思春期の子どもに戸惑ったりする保護者の姿を捉えている。しかも、それらを家庭だけの問題ではない、社会としてどう捉えるかという視点がある。継続して実践することで、個々の館の講座担当者の問題意識が深まっていくが、それだけではない。公民館全体では、個々の館の一つ一つの実践がつながって見え、そのことで問題を広い視野で深くとらえることができる状況になっている。参加者の感想を読むと響いていることがわかるので、大事に大事につないでいってほしい。

○E委員

不登校の支援をする講座や講演等は、教育委員会をはじめ多様な機関で取り組まれている。公民館の講座では、関係団体が単独で行うのではなく、一堂に会して横のつながりができている点が意義があると思う。

○C委員

公民館では、今後、全体で不登校について取り組んでいくという方向なのか。

○事業係長

ご意見を踏まえて、来年度事業を検討したい。

## (2) 令和6年度公民館主催事業計画について(資料3)

○C委員

創作講座「植物の色を楽しむ草木染～西原自然公園の樹木と草花～」(芝久保)について、芝久保公民館では長年、西原自然公園が関係する趣味講座を企画している。公民館では公民館に足を運ぶきっかけとして趣味講座を実施していると思うが、西原自然公園を巻き込んで地域資源の活用という点を取り入れることで、趣味講座への参加が地域への愛着につながっていくと思う。趣味講座が趣味だけで終わらないところに公民館の良さが見えてくると思う。

○B委員

創作講座(芝久保)に関係することだが、芝久保公民館まつりで「西原自然公園を育成する会」の創作物、映像、活動紹介等の展示を見て、西原自然公園が透けて見えるようで、すごく地域性を感じた。映像を撮影した方は90歳を超えた方で、自分がいなくなっても映像を残したいと熱意をもって話されていた。地域との密着、地域の人が楽しみにしていて、そこに新たな人が加わるという循環ができているのかなと思った。

○C委員

小学生親子夕方講座“百人一首「競技かるた」を始めよう”(田無)について、孫が小学4年生で百人一首を勉強し始めたところなので興味を持った。学校でも取り組まれているが、最終的に競技かるたという形をとるのであれば、公民館全館で行ったら盛り上がると思った。「杉並かるた会」に講師を依頼しているが、西東京市には競技かるたのサークルはないのかなと思った。

○分館長(田無)

市内には競技かるたの団体がなかったため、「杉並かるた会」に講師を依頼した。公民館全館で競技かるたができるくらい、盛り上がったらいと思う。

○A委員

田無公民館では、小学生親子夕方講座で日本の伝統文化を継続的に取り上げているが、これが田無公民館の特徴として根付いていくのかなと思う。ライフデザイン講座「仕事なんか生きがいにするな3～生きる意味を再び考える～」(柳沢)について、突っ込みにくいテーマを取り上げて、根付いてきている。大事に問題提起する講座になっていると感じた。防災講座「防災芋づる大作戦2025」(ひばりが丘)は、災害が起きた時にどう動けばよいかを切実に感じ、

多くの人に防災に関心をもってもらえるように、講義を聴くだけではない仕掛けが工夫されている。地域講座「警女唄が聞こえる」（保谷駅前）について、継続の大切さは以前から聞いている。毎年、この時期にここで実施するというふうに継続し、それを保存と結びつけていくことで、文化が継承されていくと思う。視覚障害がある方も参加されたとあるが、広がってきていると感じる。

○事業係長

ライフデザイン講座（柳沢）について、昨年度までは、自分を分析したり、自己に視点を向けて家族や子育てなど身近な問題を仕事という柱と一緒に考えてきた。今年度は、少し引いた視点で、日本とは異なる世界の人生観、そこから見えてくる日本の特異性、社会構造のひずみからくる生きづらさなど、社会派の視点を取り入れたいと考えている。昨年度までと視点が異なるため、今、講座タイトルの変更を検討している。

○A委員

講師も講座タイトルを変更することについて同意見なのか。

○事業係長

講師から、別の講座タイトルの提案があった。しかし、今までの講座タイトルに魅かれて参加した方も多数いるので、迷っている。

○A委員

「仕事なんか生きがいにするな3」で、深掘りするという方法もある。この講座は時間に追われている世代、仕事をしている世代を対象とすることは重視した方がよい。そうであれば、「仕事なんか生きがいにするな」というメッセージはそのまま、その上で、仕事、職場だけでなく、どうして生活全体がこうなっているのかと視野を広げる方法もあるのではないか。

○事業係長

今までも、仕事について考えることをきっかけに、自分のことを考えるという流れだった。ご意見を伺って、1回目で誰にとっても身近なテーマである仕事に触れ、それをきっかけに深めていくという流れがよいと思った。この方向で講師と相談したい。

○C委員

継続して参加する方もいるのか。

○事業係長

継続する方もいるが、大半は新しい方だと思う。

○F委員

メインタイトルはインパクトがあるのでこのままにして、サブタイトルを、例えば「生きづらさと向き合って」や「生きづらさを越えて」など、「生きづらさ」という言葉を入れたものにするのも一つの方法だと思う。

○事業係長

「生きづらさ」という言葉をタイトルにいと、生きづらさを抱えた方たちが多数参加されると思う。当初、主たる対象として考えたのは、毎日、何となく職場に通っていて、「このままでいいのかな？」「これからもこんな日常が続くのだろうか」と思っている大多数の人。主たる対象をだれにするかを熟考してサブタイトルを考えたい。

○F委員

どこをターゲットにするかを考えるのは難しいと感じた。

○G委員

防災講座（ひばりが丘）について、西東京市には自治会がないという人もいるが、自治会はある。ただ、以前のように、回覧板を回したり、募金を集めたりすることはない。みんなばらばらで、横のつながりがない。災害が起きた時、路地にどんな人が住んでいて、どんな暮らしをしているかもわからないので、何か困っていたとしても、助けに行くことができない。それが西東京市の実態。この講座は、「仲間を組織し、ともに活動する大切さや楽しさ、活動を地域に広げていくヒントを学ぶ機会」として企画されたとある。公民館を中心にこのことを広げていっていただくと、災害時に助け合おうという気持ちが生まれるのではないか。いろいろな公民館で楽しく防災を学ぶ機会を設けて、防災活動の中心となる人を育てていく取り組みをしてほしい。

○事業係長

防災講座は、昨年度、初めて実施した。反響が大きく、参加者も多かった。

○A委員

「一般社団法人まちにわ ひばりが丘」の「まちにわ師」の方の協力を得て企画したとあるが、ひばりが丘にはそういう方がいて、つながりができて担い手になったのだと思う。地域にいる人を大事にしていくとよい。そうすると、個性的な地域の展開になると思う。

**(3) 令和6年度第1回利用者懇談会報告(資料4)**

- 各公民館の利用者懇談会については資料4の令和6年度第1回利用者懇談会報告参照

**3 報告事項**

**(1) 行政報告**

○公民館長

教育委員会定例会があり、令和5年度公民館事業評価の報告を行った。冒頭、昨年度までAからDまでの4段階評価だったが、昨年度、教育委員のみなさんから「わかりにくい」という意見をいただいたのを受けて、AからCまでの3段階評価にしたことを報告した。次に、評価項目ごとに概要を説明した。2人の教育委員から質問があった。一つは公民館市民企画事業についてで、令和5年度の実績を報告した。事業数の増減についても質問があったので、コロナ禍で減少したが昨年度から増加傾向にあること、新しい団体の利用を増やすことが課題であることを伝えた。もう一つは、中高生対象の事業についてで、柳沢公民館主催の中学生・高校生対象講座「K-POPを踊ろう！」について、中高生にとってのサードプレイスになっていることなどを報告した。また、各公民館が工夫して、中学生から大学生まで、青少年がボランティアとしてかかわる事業に力を入れていることを報告した。

**(2) 公民館だより編集室報告**

- 担当委員より、11月18日開催の公民館だより編集室会議について報告。

**4 事務連絡及び情報交換**

**(1) 東京都公民館連絡協議会委員部会研修について**

- 担当委員より、10月26日開催の都公連委員部会の研修について報告。公運審委員、市民等、合わせて60人近い参加があった。

**(2) 令和6年度公民館運営審議会委員研修について**

日時：令和6年12月18日（水）午後6時30分

場所：柳沢公民館 視聴覚室

**(3) 第61回東京都公民館研究大会について**

日時：令和7年2月8日（土）午後1時15分～4時30分

場所：くにたち市民芸術小ホール

**(4) その他**

**(5) 令和6年度第8回定例会の開催について**

日時：令和7年1月22日（水）午後6時30分

場所：柳沢公民館 視聴覚室